

短大特任教員教育研究業績書

平成30年 5月 7日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
勝部 月子	かつべ つきこ	保育学科 通信教育課程	教授	女

担当科目名

言語表現

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学 位
昭和 45(1970)年 4月	帝塚山大学教養学部日本文化学科 入学	
昭和 49(1974)年 3月	帝塚山大学教養学部日本文化学科 卒業	教養学士
昭和 49(1974)年 4月	共立女子大学大学院文芸学研究科修士課程 入学	
昭和 51(1976)年 3月	共立女子大学大学院文芸学研究科修士課程 修了	文学修士
平成 12(2000)年 4月	帝塚山大学大学院人文科学研究科博士後期課程 入学	
平成 15(2003)年 3月	帝塚山大学大学院人文科学研究科博士後期課程 修了	博士(学術)

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
帝塚山大学演劇学研究室	1976年4月～1979年3月	トヨタ財団研究助成金研究調査に従事
帝塚山短期大学	1976年4月～2004年3月 1984年4月～1986年3月	文芸学科 (後に短期大学部、日本文化史学科) 非常勤講師 「日本の芸能」「日本文化史特別研究ⅠⅡ」「日本風俗史」 「日本文化論特別研究」 文芸学専攻科 非常勤講師「民族芸能論」「民俗芸能を考える」
学校法人三幸学園大阪医療秘書福祉専門学校	1991年4月～1993年3月	非常勤講師「一般教養」
学校法人三幸学園大阪リゾート&スポーツ専門学校	1992年4月～2015年3月	スポーツ保育科 チャイルドスポーツ科等 専任講師「一般教養」「ビジネスマナー」
帝塚山大学	1993年4月～現在	文学部:旧教養学部教養学科・人文科学部(日本文化学科・文化創造学科)・心理学部・現代生活学部(こども学科・)非常勤講師「文化と人間(日本の文化)」「民俗芸能」「文献演習Ⅱ」「日本演劇概論」「日本人の心」
学校法人三幸学園大阪医療秘書福祉専門学校	1995年4月～2010年3月	介護福祉科 専任講師「文学」「人間と文化」
帝塚山大学大学院	2004年4月～現在	人文科学研究科博士前期課程 非常勤講師「民俗芸能特論」 人文科学研究科博士後期課程 非常勤講師「民俗芸能特殊講義」
学校法人三幸学園大阪医療秘書福祉専門学校	2006年4月～現在	医療保育科 専任講師「保育内容(言葉)」「こどもと言語表現」
近畿大学九州短期大学	2006年4月～現在	通信教育部 非常勤講師「領域 言葉」
学校法人三幸学園大阪こども専門学校	2007年4月～2016年3月	専任講師「保育内容(言葉)」「こどもと文学」「こどもと言語表現」
近畿大学豊岡短期大学	2010年4月～現在	通信教育部 非常勤講師「保育指導法 こどもと言葉」「こどもと言語表現」
小田原短期大学	2016年4月～現在	保育学科 教授「言語表現」
ベトナム教育訓練省ホーチミン市師範大学	2017年2月～現在	日本語学部 講師「日本事情」「国際交流」「日本文学」「日本文学史」「日本史」

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本民俗学会	2000年4月～現在	日本民俗学会第55回年会発表

民俗芸能学会	2000年4月～現在	
藝能史研究会	2000年4月～現在	2001.2 例会発表
韓国日本近代学会	2005年4月～2007年	第11回春季学術大会発表(於 釜山)
山陰民俗学会	2005年4月～現在	
日本保育者養成教育学会	2016年10月～現在	
日本保育学会	2016年10月～現在	

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
文化庁「ふるさと文化再興事業」	2005年9月～2008年10月	奈良地域文化保存調査及び報告書作成に従事
奈良県「祭り・行事調査事業(詳細調査)」	2007年4月～2009年3月	奈良県内祭り・行事詳細調査及び報告書作成に従事
スペイン・トレド市の招待講演	2010年3月	奈良市と姉妹都市トレド市に於ける「日本人と日本文化」講演実施(奈良市後援)
フランス・ポール デュピュイ博物館招待講演	2011年3月	フランス、トゥールーズ市に於いて「日本の文化」講演
奈良県民俗芸能緊急調査事業	2011年9月～2013年3月	奈良県無形文化財(民俗芸能)調査及び報告書作成に従事
特定非営利活動法人日本文化研究所なら 設立	2012年4月～現在	国内外への日本文化の出前授業・日本の伝承文化の支援事業等
神話博覧会しまね サテライト講演	2012年8月	島根県「神話博覧会しまね」に於いて「出雲神楽」の講演
海外・招聘講義	2012年10月～現在(年2回)	ベトナム・ホンバン国際大学、ホーチミン市師範大学(2013年から)「日本の文化」講義、ホーチミン国際交流基金
奈良町復興懇話会	2014年5月	奈良市主催「奈良町復興懇話会」委員
ParcOrientalMaulevrier 招待講演	2014年7月	フランス Maulevrier 招待講演「日本の芸能」
海外・招聘講義	2016年2月	イタリア・サピエンツァローマ大学で招聘講義「日本文化」
奈良県香芝市立鎌田幼稚園サポート	2016年6月～現在(毎週)	園内文化行事のサポート支援・預保育のサポート及び言語指導法に関わる観察
奈良県香芝市立五位堂保育園研修	2016年8月	教員・保育士・園児(5歳児)を対象とした「和太鼓遊び」の研修及びそれに関わる音と言語の相関性の観察

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
博物館学芸員資格	1974年3月	帝塚山大学
中学校教諭一級・高等学校教諭二級(社会)普通免許	1977年3月	奈良県教育委員会
文学修士	1976年3月	共立女子大学大学院
博士(学術)	2003年3月	帝塚山大学大学院

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 神楽と風流	共著	1996年4月1日	「山陰民俗叢書9」山陰民俗学会	石見益田の糸操り人形芝居は日本における南京操りの系列を引き継ぐ希少なものといえる。現地採訪調査を基にした論考の中でその特質を明らかにした。風流の章「石見益田糸操り人形」

技と形と心の伝承文化	共著	2002年3月1日	慶友社	<p>(pp.165-171) 西角井正慶・石塚尊俊・本田安次・岩田勝・倉林正次・谷本浩之・川上登・俵元昭・大庭良美・渡辺友千代・高橋重夫・松浦康磨・横山彌四郎・岡義重・矢富熊一郎・勝部月子・小島清兵衛・祝宮静・横山直材・山口覚・守屋毅</p> <p>出雲神楽の主要な構成要素である七座の特質について論じた。殊に古文書等にある七座の事例の比較考察から、その様式は必ずしも一定ではないことを明らかにした。また、出雲地方にあつては「七座神事」と言はれるごとく、七座の舞そのものが祓いの祭式であることの特異性を明らかにした。Ⅲ章芸能と採物「出雲神楽における七座神事について」(pp.374-397)岩井宏實・朝岡康二・野本寛一・神崎宣武・田邊悟・松崎憲三・大島暁雄・小川直之・前野雅彦・渡辺誠・松崎かおり・田中宣一・加藤幸治・前田俊一郎・吉川壽洋・福原敏雄・印南敏秀・菅原千華・岩崎竹彦・赤田光男・菅野剛宏・勝部月子・林美奈子・福持昌之</p>
芸能と信仰の民族芸術	共著	2003年5月	和泉書院	<p>人々の信仰と民俗芸能の関係について論じた。特に奥出雲地方で傳承されている奥飯石神職神楽の事例から、神楽がこの地域社会の中でどのような機能を持つか。また祭りの場はどのように構築されていくのかを考察することにより、この地域の特質をも明らかにした。第Ⅱ部演者と観客「神楽と民衆」(pp.157-186)森永道夫・吉川周平・中川幾郎・戎一郎・竹本浩三・桂文枝・神澤和明・勝部月子・三苫佳子・脇谷英勝・須山章信・中谷克己・上野誠・赤田光男・福持昌之・奥村晃代・東條さやか・王冬蘭・麻國鈞・金白峰・安秉憲・堀保仁</p>
民族藝術VOL18	共著	2002年3月	民族藝術学会	<p>近代、花街の果たした役割を通して、日本の近代社会成立過程の特質の一端を論じた。殊に春日大社の社務日誌からは、かつて春日大社の年中行事に加えられていた真榊奉納が、神社と花街の緊密な関わりにあつたことを見出した。近代化を目指す奈良の観光産業に大きく寄与していたことを明らかにした。(pp.147-156)民族藝術学の諸相「近代における祭礼と花街一元林院検番の真榊奉納行事」熊倉功夫・吉田憲司・岩井宏實・水尾比呂志・近藤雅樹・小島摩文・川田都樹子・李炳男・小島邦江・濱田琢司・塩時宥子・上羽陽子・田口理恵・金谷美和・勝部月子・藤原貞朗・石井佳子・藤原宏夫・吉松実花</p>
出雲神楽の世界	単著	2009	慶友社	<p>近代、花街の果たした役割を通して、日本の近代社会成立過程の特質の一端を論じた。殊に春日大社の社務日誌からは、かつて春日大社の年中行事に加えられていた真榊奉納が、神社と花街の緊密な関わりにあつたことを見出した。近代化を目指す奈良の観光産業に大きく寄与していたことを明らかにした。(pp.147-156)民族藝術学の諸相「近代における祭礼と花街一元林院検番の真榊奉納行事」熊倉功夫・吉田憲司・岩井宏實・水尾比呂志・近藤雅樹・小島摩文・川田都樹子・李炳男・小島邦江・濱田琢司・塩時宥子・上羽陽子・田口</p>

幼児教育における表現 I	共著	2018年1月15日	三恵社	理恵・金谷美和・勝部月子・藤原貞朗・石井佳子・藤原宏夫・吉松実花 幼児に既知の昔話を母親とのやり取りを交えながら語る状況を、質的研究法の視点から捉えた。その特徴を<理論的研究編>の中で「幼児の思考と言語を繋ぐ母親の役割に関する理論的研究」として浮き彫りにした。(pp86-91) 幼児教育を学ぶ学生が現場において、より有効的に児童文化財の活用ができる学びとは何かについて学生の学びの実践をとおして考察した。その実際は<実践的研究編>の中で「児童文化財を用いた言葉指導法に関する授業実践研究」明らかにした。
(学術論文) 道行からみた人形浄瑠璃	単著	1977年5月1日	『KYOURITSUREVIE W』5月号(共立女子大学大学院紀要)	近松門左衛門の世話浄瑠璃における道行の場をとおして、その表現方法を分析することから人形浄瑠璃芝居の独自性を考察した。
バリ島における舞踊の種類と特性	単著	1978年6月1日	『KYOURITSUREVIE W』6月号(共立女子大学大学院紀要)	インドネシア・バリ島の現地探訪調査から、この地における舞踊の型と技法を記録・分析し、その特性について明らかにした。
芸能伝承の意味—特にインドネシア・バリ島の事例を通して—	単著	1989年7月1日	『日本文化史研究』第11号(日本文化史学会)	芸能が人々の社会生活の重要な基盤として機能しているインドネシア・バリ島において、芸能がどのように社会システムのなかにとり入れられ、伝承されているのか現地探訪調査した。それを踏まえて、芸能を伝承することの意味が、この地においてははまだ民族的事実であることを考察した。
近世以来の神楽の変容	単著	1991年9月1日	『日本文化史研究』第31号(日本文化史学会)	出雲・石見地方で伝承されている里神楽は、明治の新政に基づく改革で神職演舞禁止令を受けた。その後この地方の神楽の伝承形態や舞の型、また神楽そのものが変化してきた。こうした変容が人々にもたらした神楽への意識と意味づけはどのようであったかを考察した。
花街の成立—奈良・元林院の事例を通して—	単著	1999年7月1日	『日本文化史研究』第31号(日本文化史学会)	本稿では、明治初年から花街として成立した奈良市の元林院検番が、県令により芸妓本位の花街と位置づけられていたことを明らかにした。また、元林院検番の成立過程を通して近代奈良の特質を考察した。
奈良に因んだ歌舞	単著	2000年3月	『奈良学研究』第3号(奈良学学会)	歌はその時代と地域性を色濃く表現しているものといえる。奈良の観光産業に大きく寄与した元林院検番の芸妓によって明治末期から歌い継がれてきた奈良に因んだ歌を中心として社会の諸相を明らかにし、近代社会の特質を考察した。
無形文化財と記録・保存—都をどりの一六ミリ映画を題材として—	共著	2001年3月1日	立命館大学	平成10年度～12年度科学研究費補助金(基盤研究C2研究成果報告書「芸能・演劇分野の無形文化財保存の方法に関する基礎的研究」(pp.163-170)第四章映像「都踊りの背景画について—昭和10年を中心として—」都をどりの主題(謡曲名所)背景画の作成経緯、社会状況からその特質について考察した。川嶋将生・岡田万里子・赤間亮・大坪秀夫・富田美香・板倉史朗・小山富紀子・山田和人・勝部月子・大西秀紀・廣井榮子
出雲神楽—奥飯石神職神楽を中心として—	単著	2001年3月1日	『日本文化史研究』第33号(日本文化史学会)	出雲神楽の特徴を顕著に残す奥飯石神職神楽を事例として、特に七座神事に関する行法・舞を整理分析することから、七座神事が減いをその特質とすることを明らかにした。

出雲神楽一七座神事の成立過程(一)一	単著	2002年1月1日	『帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要』第3号	出雲神楽の成立以前の神事舞について考察することから、七座神事の背景を明らかにした。また併せて舞の比較考察からその伝播の一流として、奥飯石神楽の位置づけをおこなった。
出雲神楽における七座神事について一宗源神道根元式一	単著	2002年3月1日	『日本文化史研究』第34号(日本文化史学会)	吉田神道の『宗源神道根元式』に注目して、それが出雲神楽の七座神事の構成要素となったことを考察し、伝承される神楽台本『出雲神代神楽之巻』と比較考察することにより明らかにした。
萬玉楼	単著	2006年1月1日	『奈良学研究』第8号	奈良の花街、元林院において、最も隆盛した置屋「萬玉楼」にのこる希少な資料からその実態を解明した。これにより社交の「場」の意味と近代奈良を支えた花街の実態を明らかにした。
近代の大阪における祭礼と花街一住吉大社の祭礼を事例として一	単著	2007年3月1日	『日本文化史研究』第38号(日本文化史学会)	近代社会の神社祭礼の特色の一つに神社と花街の関わりがある。両者の相俟った繁栄は近代社会の特質の一面を如実に表しているといえる。こうした特質を大阪の住吉大社の事例を基にして考察した。
奈良の花街年表	単著	2009年1月1日	『奈良学研究』第11号	奈良の花街の沿革を年表として整理することから、明治末期から昭和初期の社会の諸相を花街の社会との関わりから考察した。
(その他) 日本伝奇伝説大事典 浄瑠璃作品要説(6) 浄瑠璃作品要説(7) 桐竹勘十郎丈聞書(一) 奈良文化探訪 郷土史大辞典 都祁上深川、八柱神社の祭礼と芸能		1986年10月1日 1990年3月1日 1993年3月1日 1993年6月1日 2001年10月 2005年6月1日 1979年5月1日 2006年3月1日	角川書店 国立劇場 国立劇場 帝塚山演劇学Ⅲ(帝塚山大学演劇学研究室) 帝塚山大学大学院人文科学研究科 朝倉書店 帝塚山学園 奈良地域伝統文化保存協議会	巨勢金岡等一部執筆 為永太郎兵衛・浅田一鳥篇作品要説(「甲斐源氏 桜軍配」)執筆 福知鬼外ほか江戸作者篇作品要説(「神霊矢口渡」)執筆 人間国宝・二世桐竹勘十郎丈(文楽人形遣い)の聞き書き(昭和61年6月～8月) 奈良の歴史文化解説。第四章奈良町の会所と文化財で、奈良町の遊興について執筆 出雲神楽等一部執筆 韓国における現地探訪調査報告書(1) 国の重要無形文化財である「題目立」の現況調査報告
その他(表彰等)	なし			